

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103417
法人名	医療法人 天陽会
事業所名	グループホーム さくらじま
訪問調査日	平成19年7月4日
評価確定日	平成19年8月3日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4 6 7 0 1 0 3 4 1 7
法人名	医療法人 天陽会
事業所名	グループホームさくらじま
所在地	鹿児島市野尻町49-1 (電 話) 099-245-0818
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成19年 7月 4日

【情報提供票より】(平成19年 6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 12月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 9人, 非常勤 7人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月 20日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	9 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.4 歳	最低	67 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	桜島病院 中央病院 中央クリニック 福重歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

桜島という大自然に抱かれた地に建てられ、理念の一つである「自然とのふれあい」を大事にしたホームである。また、協力医療機関でもある母体病院に隣接しており、定期的な外来受診や夜間、緊急時の往診など、ホームでの生活を継続しながら充実した医療面での支援が受けられることもこのホームの特徴である。研修体制も充実しており、職員は介護福祉士等の資格取得に励んだり、ホームでの勉強会は勿論、母体病院で開催される勉強会や外部の研修会などに積極的に参加し、介護技術の向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 「入居者一人ひとりの尊重」「一人ですることへの配慮」「排泄時の不安や羞恥心等への配慮」「金銭管理の支援」「職員の意見の反映」「継続的な研修の受講」に関しては改善が図られ、適切に運用されている。しかし、「個別の栄養摂取状況の把握」及び「市町村との関わり」に関しては、引き続き改善に向けた取り組みが必要であると思われる。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者及び職員全員で自己評価が行われている。評価に関しては、これまでの仕事の振り返りの機会としてとらえられており、十分でない点については全員で話し合い、改善に向けて積極的に取り組んでいる。
	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 6月に開催された第1回運営推進会議では、ホームの概要や開設以来の入居者の動向、ホームの行事、及び今回の外部評価について説明が行われている。また、運営推進会議設置要項に基づき、本会議の趣旨も説明されている。具体的な活動はこれからと言える。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情窓口や意見箱の設置に加え、面会時には意見、苦情などがないかご家族に対し管理者及び職員が積極的に声かけを行っている。また、ご家族からの苦情等に対し話し合いが行われ、サービスの改善も図られている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事に参加したり、近くの養護施設の子供たちとお互いの施設を行き来し合っている。また、民生委員の会議や食事会の場所としてホームが利用されているため、定期的に民生委員の方々が訪れている。その他、近所の方からの野菜の差し入れもあり、地元との交流が図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時、職員全員で話し合い、ホームが建てられた桜島という大自然(地域)とのふれあいを大事にした理念が作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼時に全員で唱和し、意識付けを行っている。また、日頃から、理念である心からの笑顔や自然とのふれあいを職員一人ひとりが心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加したり、近くの養護施設の子供たちとお互いの施設を月に3回程度行き来している。また、民生委員の会議や食事会の場所としてホームが利用されているため、定期的に民生委員の方々が訪れている。その他、近所の方からの野菜の差し入れもあり、地元との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	夜勤の時間等を利用し、管理者及び職員により自己評価が行われている。評価に関しては、これまでの仕事の振り返りの機会としてとらえており、十分でない点については、全員で話し合い改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6月に第1回目の運営推進会議を開催しており、ホームの概要や開設以来の入居者の動向、ホームの行事等が資料を基に説明されている。また、今回の外部評価についても説明されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現状では、市担当者と行き来する機会がなく、連携が取れているとは言い難い。	○	運営推進会議の開催を機に市の担当者と行き来する機会をつくり、サービスの質の向上に向け、共に取り組む体制を築いていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族が訪問された際に直接お話ししたり、電話により日頃の入居者の様子が伝えられている。また、入居者の写真及び担当職員による近況報告が書かれた「グループホーム さくらじま」も 毎月発行されている。金銭管理については、出納帳及び領収書の写しを毎月家族に送付している。毎年4、8、12月に家族会が開催され、新しい職員の紹介等も行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談・苦情窓口が明示され、ホーム玄関には意見箱を設置している。また面会時には意見、苦情などがないか、ご家族に対し管理者及び職員が積極的に声かけしている。これまでも、ご家族からの苦情等に対して話し合いが行われて、サービスの改善が図られている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない退職や法人内の異動もあるが、馴染みの職員を増やし、異動等による影響を軽減させるために、ユニット間での職員の配置換えを3ヶ月毎に行っている。その際も、入居者が混乱することがないように、2名程度に抑えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会及び隣接する同法人の病院の勉強会がそれぞれ毎月開催され、可能な限り全職員が参加している。また、職員の介護福祉士資格取得の取り組みに対し、ホームを勉強場所として提供して管理者が協力するなど、職員育成に対し積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣にグループホームは同ホームしかないため、県のグループホーム協議会を通じ、交流を図ったり、同一法人内の小規模多機能施設や隣の垂水地区のグループホームと交流する機会を持ち、お互いのサービスの質向上に向けた取り組みが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にご家族がホームを見学することはあるが、本人が、職員や他の入居者、ホームに徐々に馴染んで行き入居に至るケースは少ない。	○	馴染みの関係が出来ないまま入居に至ることは、入居者にとって様々なダメージをもたらす危険がある。出来るだけ、入居前にはご家族だけでなく入居者ご本人もホームを訪れ、職員やその他の入居者、サービスに馴染み、安心して入居に至ることが出来るよう検討していただきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	地域の昔からの風習や料理の仕方を教えていただくなど、職員は入居者を人生の先輩と位置づけ、一緒に過ごしながら入居者から学んだり、支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月第2、第4の日曜日、ユニット毎にケア検討会を行い、入居者それぞれの思いや暮らし方の希望、意向の把握や日頃の様子が話し合われている。また、ご家族の意向も大事にされており、面会時は必ず話をするように心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の意向や本人の希望、日頃の様子など、ケア検討会議で話し合われたことを参考に、入居者本位の介護計画が作られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則、評価は6ヶ月毎、計画の見直しは1年毎に行われている。入居後病状が回復するケースも多く、計画実施途中ながら、計画の変更を実施することもあり、現状に即した対応が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の外来受診や医療連携体制に基づく看護師による点滴施行、医師による夜間の往診等、医療処置を受けながらホームでの生活を継続させるなど、事業所の多機能性を活かした支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医(現状では隣接する協力病院の担当医)への定期的な外来受診が受診表により管理されている。加えて、急変時の受診など適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制を活かし、重度化した場合や終末期を迎える場合の対応は可能である。入居の際の説明の他、入居者の状態が変化した時など、随時、ご家族と話し合う機会を持ち、意向の変化を確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	忙しさから時に入居者に対し、否定的な言葉や態度が出てしまう時がある。その際は、管理者を中心に検討がなされ、再発防止に向けた対応がとられている。個人情報に関しては入居時に各種書類によりその取り扱いが説明され、入居者及びそのご家族の同意を得て適切に取り扱われている。	○	入居者の尊厳と権利を守るためには、一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底していくことが求められる。現状でもそのような行為に気付いたらすぐに改善に向けて対応されているが、更に管理者を含め、全職員で改善に向けて取り組んでいただきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム側の決まりや都合に束縛されることがないように、細かい日課は決めておらず、入居者それぞれのやりたいことを優先し、希望に添えるよう支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえやテーブル拭き、配膳、下膳、後片付けなどそれぞれの出来ることをやっていただき、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は水曜日以外の14時からと一応決められてはいるが、それぞれの希望に応じた対応は可能である。外出後や汗をかいいたりした時など、状況に応じてシャワー浴等、適宜対応されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの生活歴や出来ること、好きなことなどを把握し、洗濯物たたみや調理の下ごしらえ、花壇や畑の草取り、苗植え等日々の暮らしの中で役割や楽しみを見出せるよう支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「自然とのふれあい」という理念のもと、近くの公園に散歩に出かけたり、外でお茶を飲んだり、日常的に戸外へ出掛けることを支援している。また、週に1回は、ドライブにより遠出を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や居室に鍵をかけることは無く開放されており、入居者は自由に入出入りできる状況にある。外出しようとする場合などは職員が声を掛けたり、場合によっては一緒について行くなどの見守りが行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年1月に桜島の噴火を想定した地域の防災訓練が行われ、職員や入居者(一部)が参加している。また、年に2回隣接する病院と共同で避難訓練(火災)を行っている。近隣に民家が少なく、地域の人々の協力を得にくい状況にあり、隣接する病院や、職員寮と日頃から連携を取り、災害の対策に当たっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取については、隣接する病院の管理栄養士に定期的にチェックしてもらい、バランスの取れた食事が提供されており、食べる量も毎食チェックされている。しかし、水分確保については職員による支援はなされているものの、摂取量等のチェックまでは行われていない。	○	入居者一人ひとりが一日にどの程度水分摂取できているか、大体の量を確認する意味からも、食事の摂取量のチェック同様、水分摂取量についても管理する体制を検討していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花や手作りのカレンダーが飾られるなど、生活感や季節感を感じる居心地のよい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって馴染みの物が持ち込まれたり、家族の写真や入居後の外出時の写真が飾られるなど、その人らしい居室となっている。また、たまには入居者の希望によりベッドの位置を変えるなど、居心地よく過ごせるよう配慮している。		